

Tokyo Contemporary Art Award 2020-2022 概要

【目的】

国内で実績があり、世界に発信すべき中堅アーティストのステップアップを促し、世界で活躍するアーティストの登竜門となるような賞を通じ、東京の文化都市としての魅力を向上させる。

【対象】

海外での活動に意欲があり、概ね10年以上の活動経歴を有する現代美術の分野で活動する中堅アーティスト（ジャンル不問）

【特徴】

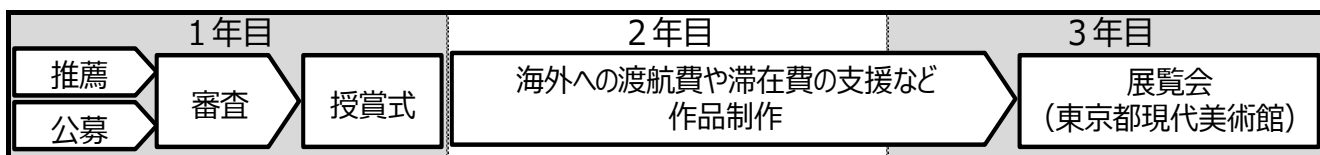
- ・スタジオ訪問や面談により、**作品のみではなく、制作のプロセスを含めたアーティストのポテンシャルを総合的に審査**
- ・受賞から、**東京都現代美術館で展覧会を実施**するまで、2年間*をかけて**継続的に支援**

【支援内容】

受賞者は2組とし、それぞれに以下の支援を行う。

- (1) 賞金300万円
- (2) 海外での活動支援100万円*（旅費、滞在費、調査・制作費等）
- (3) 展覧会実施（東京都現代美術館での展示）
- (4) モノグラフ（作品集）の作成（上記（3）の展示にあわせて制作*）

【賞のスケジュール*】



*上記の支援内容とスケジュールは第3回までのものです。第4回（Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024）からは、アーティスト支援の充実のため、内容に変更があります。

Tokyo Contemporary Art Award 2020-2022 選考委員

(順不同/敬称略)

神谷 幸江	ジャパン・ソサエティー、ニューヨーク ギャラリー・ディレクター
住友 文彦	アーツ前橋 館長/東京藝術大学大学院准教授
ドリユン・チョン	M+ 副館長/チーフ・キュレーター
マリア・リンド	キュレーター、ライター、エデュケーター
キャロル・インハルター	北京中間美術館 ディレクター
近藤 由紀	トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター (公益財団法人東京都歴史文化財団東京都現代美術館トーキョーアーツアンドスペース事業課長)

※肩書きは、2019年選考会当時のものです。